

2015 君が創る 近畿総体
「風になれ 今青春が 走り出す」

全国高等学校体育連盟テニス専門部
副部長 内藤 美明

〈はじめに〉

昭和36年（1961年）以来の大阪での開催となる君が創る近畿総体は、マリンテニスパーク北村で開催されました。今年で105回を迎える全国高等学校テニス選手権大会ですが、記念すべき第1回大会は、ここ大阪の浜寺公園で開催されています。半世紀ぶりに「高校テニス発祥の地」に帰ってきました。8月3日（月）には、「全国高等学校庭球選手権大会発祥の地」記念行事も行われ、大会期間中にもかかわらず、多くの方々に来て頂き、盛大に行われました。大阪府の先生方・補助員の高校生達の思い、そして選手達の熱い戦いが、連日37℃を越える猛暑の中で行われました。



〈開会式〉

大東市立総合文化センターで行われた開会式では、前年度優勝旗・優勝杯の返還の後、「高校テニス発祥の地である、ここ大阪に53年振りにインターハイが帰ってきました。今、私たちはこのインターハイという舞台に立てるということに誇りと幸せを感じています。そして、過去の伝統を引き継ぎ、重んじて私たち選手一同は、テニスを通じて多くの方々に明日へと進む原動力となるような、勇気、感動、情熱的なプレーをし、最後まで挑戦し続け、最後まで諦めないことの大切さを伝え、そして、平和な空の下でテニスができること、今まで指導して下さったコーチ、先生、どんな時でも支えてくれた両親、そして掛けがえのない仲間に感謝し、母校の誇りと仲間の思いを胸に、自分を信じ、そして、未来を信じて誠心誠意、戦うことを誓います。」と清風高等学校、春原康佑・城南学園、反田茉鈴選手が選手宣誓を行った。式の後に行われた、大阪府立夕陽丘高等学校音楽科による歓迎演奏、梅花高等学校チアリーディングクラブによる演技も会場の雰囲気を大いに盛り上げ、参加校の翌日からの試合にかける思いを後押しした。



〈団体戦〉



男子ベスト8は次の学校。

四日市工（三重）、名経大市邨（愛知）、法政二（神奈川）、西宮甲英（兵庫）、岡山理大附（岡山）、松商学園（長野）、京都外大西（京都）、清風（大阪）。大混戦の中、準決勝に駒をすすめたのは、第2シードの大分舞鶴に3回戦で勝利した地元大阪代表の清風。そしてシード校の四日市工、西宮甲英、岡山理大附でした。

第1シード四日市工対春の全国選抜高校テニス大会準優勝の相生学院を兵庫県大会で破って近畿地区優勝の第4シード西宮甲英の準決勝。シングルス2 鈴木（四日市工）対白藤（西宮甲英）は、7-5、6-4で四日市工がまず1勝。しかし、ダブルス、シングルス1ともにファイナルセットに突入。橋川・大谷（四日市工）対羽澤・トウロタージェームズ（西宮甲英）は、6-2、3-6、6-3で西宮甲英。シングルス1 島袋（四日市工）対清水（西宮甲英）も4-6、6-4、6-3で勝ち、西宮甲英が決勝に進出しました。

第3シード岡山理大附対第2シードを破って勢いに乗る地元大阪代表の清風の準決勝は、シングルス1 楠原（岡山理大附）対望月（清風）は7-5、6-0で清風。シングルス2 合田（岡山理大附）対岡村（清風）は6-3、6-1で岡山理大附。ダブルス高坂・吉松（岡山理大附）対今村・小清水（清風）は6-3、7-6で清風が勝利し、平成3年以来、24年振りの決勝進出。

決勝は、西宮甲英対清風。昭和13年、第5回大会以来77年振りの近畿対決となりました。シングルス2 白藤（西宮甲英）対春原（清風）は、6-3、6-2で西宮甲英。ダブルス、シングルス1ともにファイナルセットに突入。シングルス1 清水（西宮甲英）対

望月（清風）、3-6、6-3、5-0で清水のマッチゲーム。土壇場で粘る望月。しかし、ダブルス羽澤・トウロタージェームズ（西宮甲英）対今村・小清水（清風）の試合が7-6、3-6、6-4で西宮甲英が勝ち、西宮甲英の初優勝が決まりました。望月はファイナルセット0-5から3-5と追い上げましたが、清風の24年振りの優勝は消えてしまいました。地元近畿の方々の応援を受けて頑張っている両校の選手達の姿がとても印象に残る素晴らしい試合でした。



女子ベスト8は次の学校。

沖縄尚学（沖縄）、秀明八千代（千葉）、九州文化学園（長崎）、相生学院（兵庫）、野田学園（山口）、京都外大西（京都）、城南学園（大阪）、鳳凰（鹿児島）。

ベスト4に進出したのは、第1シードの沖縄尚学に2-1と競り勝った秀明八千代。第4シードの相生学院。第3シード野田学園を2-0のストレートで破った春の選抜優勝の京都外大西。第2シード仁愛女子が初戦で敗れるという大混戦の第2シードブロックを勝ち上がった地元大阪の城南学園の4校。そして、史上初のベスト4に近畿から3校。さらに決勝は、相生学院対京都外大西。史上初の男女共に近畿勢同士の決勝ということになりました。

男女共に近畿勢同士の決勝ということで、決勝戦の日のマリンテニスパーク北村は、朝から応援団の熱気でさらに気温が上昇し、異様な熱気に包まれていました。

シングルス2上田（相生学院）対大塚（京都外大西）は、6-2、6-4で相生学院。シングルス1藤原（相生学院）対越野（京都外大西）は、6-3、1-6でファイナルセットへ。しかし、ダブルス堺・池内（相生学院）対大野・八田（京都外大西）の試合が6-3、7-5で、相生学院が勝利し、優勝が決まりました。

決勝戦の後の表彰式では、表彰を受ける8校のうち地元を含めた近畿勢が5校。地元近畿勢の頑張りが大会を盛り上げ、会場は熱気の渦に包まれているように感じました。



〈個人戦・シングルス〉

男子ベスト8は、次の選手。丸数字は学年。

高村佑樹③（千葉・東京学館浦安）、杉森優輝③（長野・松商学園）、島袋将③（三重・四日市工）、清水悠太①（兵庫・西宮甲英）、望月勇希③（大阪・清風）、古賀大貴③（大分・大分舞鶴）、今村昌倫②（大阪・清風）、田代悠雅③（兵庫・相生学院）。

近畿4名、関東1名、北信越1名、東海1名、九州1名、ヒードダウントレーニングが相次ぐ中、近畿勢の活躍が光った。

第1シード昨年準優勝の小林雅哉③（千葉・東京学館浦安）を破った同校の高村佑樹③（千葉・東京学館浦安）対春の選抜個人戦の優勝者、望月勇希③（大阪・清風）の決勝戦は、望月勇希が6-1、6-2と圧倒的な強さを見せつけて優勝しました。過去、清風高校の選手達は何人も決勝に進んでいましたが望月勇希が初めて優勝の栄冠に輝きました。春の選抜個人戦、インターハイの2冠。9月に行われるUSオープンJr派遣も決まっており、活躍が期待される優勝でした。

女子ベスト8は、次の選手。

小堀桃子（東京・大成）、向井マリア（大阪・城南学園）、清水映里②（埼玉・山村学園）、加藤慧（東京・大成）、竹本琴乃（香川・高松北）、松田美咲②（埼玉・浦和学院）、リュー理紗マリー③（沖縄・沖縄尚学）、原口紗絵③（神奈川・湘南工大附）。

関東5名、近畿1名、四国1名、九州1名。そして、ベスト4に関東勢が3名。関東勢の活躍が光っていました。

第1シード小堀桃子②（東京・大成）と第7シードリュー理紗マリー③（沖縄・沖縄尚学）との決勝戦は、小堀桃子のストローク対リュー理紗マリーのカウンターの戦いでした。しかし、小堀桃子のストローク力が勝り、6-3、6-3で小堀の初優勝が決まりました。



〈個人戦・ダブルス〉

男子ベスト4は、次の選手。

高村烈司③平山浩大③（京都・京都外大西）、今村昌倫②小清水拓生②（大阪・清風）、田代悠雅③大島立暉②（兵庫・相生学院）、小林雅哉③高村佑樹③（千葉・東京学館浦安）。

決勝は、高村烈司・平山浩大（京都・京都外大西）対小林雅哉・高村佑樹（千葉・東京学館浦安）。2-6、6-4、3-1の40-40。ここで雷による中断。15:30。雨は降らないものの、雷の音と光が続く中、ずっと避難して待機。約2時間後の17:40試合再開。ファイナルセット6-2で高村烈司・平山浩大の優勝が決まりました。

女子ベスト4は、次の選手。

大石真珠美③剣持梓③（東京・早稲田実業）、向井マリア③藤原早気②（大阪・城南学園）、南文乃③松田美咲②（埼玉・浦和学院）、リュー理紗マリー③西里夏子③（沖縄・沖縄尚学）。

決勝は、大石真珠美・剣持梓（東京・早稲田実業）対リュー理紗マリー・西里夏子（沖縄・沖縄尚学）。攻守に渡り、相手を翻弄、ダブルスのうまさが光り6-2、6-2でリュー理紗マリー・西里夏子（沖縄・沖縄尚学）が優勝しました。

〈おわりに〉

連日、37℃を越える猛暑の中、個人戦2日目の雷による2時間の中断の為、やむなく試合スケジュールを変更。そして、追い打ちをかけるように最終日にまたもや雷による2時間の中断。最終日、18:05に男子ダブルスの決勝戦が終わり、全試合が終了しました。20分後の18:25から表彰式・閉会式が夕暮れの中、始まりました。女子の試合は、雷による中断の前には、全試合が終了していました。度重なるアクシデントの中、戦う選手達、監督、応援の方々、そして、大阪府の運営の先生方と補助員の高校生達で作り上げたインターハイ。閉会式が終了した後のみんなの笑顔がとても印象的でした。

大会に關係して頂いた方々への感謝の意を表したい、そして、来年は、島根インターハイ。明日からは、「神出する國」でのインターハイへの戦いが始まります。そのような高校生達の戦いに成ることを願って、レポートを閉じることに致します。





